



### 『三国志 40人の名脇役』

渡辺 精一／著  
二玄社

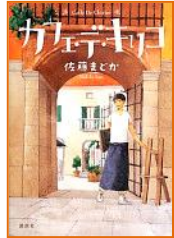
923.5

ラ

三国志には劉備・諸葛亮・曹操など英雄が続々と登場します。この本では黄蓋・満寵・田豊など40人が「脇役」として紹介されていますが、決して主役に引けを取らない能力や魅力の持ち主です。

それぞれの活躍が1人4ページ程度に分かりやすくまとめられています。三国志に興味を持ち始め、登場人物のことをもっと深く知りたくなった人にとっては、小説『三国志演義』では取り上げられなかったエピソードもあるので、新たな知識との出会いにどんどんとページが進むことでしょう。

主役になりきれなかったのは、才能の差かそれとも時の運なのか。個性的な脇役たちの生き様に触れながら、壮大な歴史のロマンや醍醐味を感じ取ってください。



### 『カフェ・デ・キリコ』

佐藤 まどか／作  
講談社

Y

サト

中学2年生の霧子は、イタリア人の父親と日本人の母親との間に生まれました。イタリアの祖父に結婚を反対され、勘当された両親は、日本で霧子と3人で暮らしていましたが、ある日突然父親が交通事故で亡くなり、そのすぐ後にイタリアの祖父も亡くなります。会ったこともない祖父の遺言で、イタリア・ミラノにある築300年の建物を相続することになった霧子は、母と共に移住をすることに。そこで母娘は「居心地のいいカフェ」作りを決意し、「カフェ・デ・キリコ」を開店しました。隣の家に住む血の繋がらないバジリコ兄弟、いじわるなクラスメイト、毎日カフェにやってくる気難しそうな老人…。異国の地で様々な人と交流していく中で、霧子は恋や家族の絆を知っていきます。

夏のカラッとしたイタリアの空気が伝わってくる爽やかな1冊です。



### 『きみの友だち』

重松 清／著  
新潮社

F

シゲ

小学四年生のとき、友だちとの些細な悪ふざけがきっかけで交通事故にあい、松葉杖を使わないと歩けなくなった恵美。恵美は、友だちを責め悲しみに打ちひしがれ、友だちの誰とも付き合わなくなりました。けれど恵美は、学校の行事がきっかけで、重い病を抱える由香に次第に心を開いていき、二人は自然と友だちになっていきます。そんな恵美たちのもとには、悩みや不安を抱えた子たちが次々に集まってきます。みんなと仲良くしたくて、特定の友だちを作らず八方美人な子、転校してくる前にいじめにあっていた子…。少女たちが苦悩を乗り越えようと、支え合い少しずつ成長していく姿が描かれています。

友だちとは何か、友だちの本当の意味や大切な何かを教えてくれる切なくも心温まる物語です。



### 『ミーナの行進』

小川 洋子／作  
中央公論新社

F

オガ

朋子は父亡き後、母とふたりで暮らしていました。しかし、中学に入学する年に、母の仕事の都合で、芦屋に住む親戚に預けられることとなります。初めて会う会社社長の伯父、物静かな伯母、ひとつ年下のいとこのミーナ。そして、ドイツ人の伯父の母に、お手伝いの人たち。大きなお屋敷の中で、自分たちの世界を大切に過ごす一家に、朋子は魅了されます。特にいとこのミーナは、朋子にとって魅力的でした。ミーナは物語を愛し、ポケットに入れた宝物のマッチ箱を見つめながら、朋子に様々な物語を聞かせてくれます。けれど、朋子は徐々に気づいていきます。家族の人気者である伯父が、たまにしか帰って来ないこと。留学中のミーナの兄が、伯父には手紙を寄こさないこと。家族の様々な感情に触れ、それを受け入れることで成長していく朋子の一年間の物語。